

法華経寺

JR下総中山駅から北上すると、京成の京成中山駅の手前にはこんな看板があった



京成の京成中山駅を過ぎると、法華経寺の黒門(江戸時代中期)が見えてくる



高麗門という形式で、矩形の2本の本柱が背後の円柱の控柱に腰貫を通して支えられている





市川市指定有形文化財

大本山 法華経寺 黒門 附扁額

昭和三十六年指定

この門は法華経寺の総門で、全体が墨塗りとなっているため黒門と呼ばれています。建立年代は明確ではありませんが赤門（仁王門）の創建と同じ、江戸時代の初期頃と考えられます。

門の形式は高麗門（こうらいもん）と呼ばれる形式で、四角の本柱二本と丸い控柱二本で構成され、本柱の上には細長い切妻屋根を掛け、本柱と控柱の間にも一段下げて直角に切妻屋根を掛けます。もともと高麗門は城郭の外門に設けられたので板扉が付けられますが、黒門には門扉が付いた痕がなく、当初から吹き通しの門でした。

建立後、度々の修理が行われましたが、これは控柱が掘立で五〇年程度での取替えが必要なこと、屋根葺替えや塗装が主なる修理内容です。本柱など本体構造は当初の状態が残っています。

なお、正面中央に掛かる扁額は掛川城主太田資順の筆で、裏面に寛政五年（一七九三）の刻銘があり、門の附指定です。全体に彩色が施され、文字は浮彫りになっています。

如来滅後

閻浮堤内

本化菩薩

初轉法輪

法華道場

平成二十一年七月より十七か月を要して解体修理を施し、基礎を新たにコンクリート造に改め、控柱を取替えて従来の掘立柱を継承した。また、屋根の銅板を葺替えたほか、腐朽していた木鼻等を取替えて塗装を塗り替えた。併せて扁額の修理も施した。

平成二十二年十一月

大本山 法華経寺
市川市教育委員会

更に進むと仁王門がある



仁王門(赤門ともいう)















「正中山」の扁額



なかなか各矩形のバランスが良い





軒の出も大きい



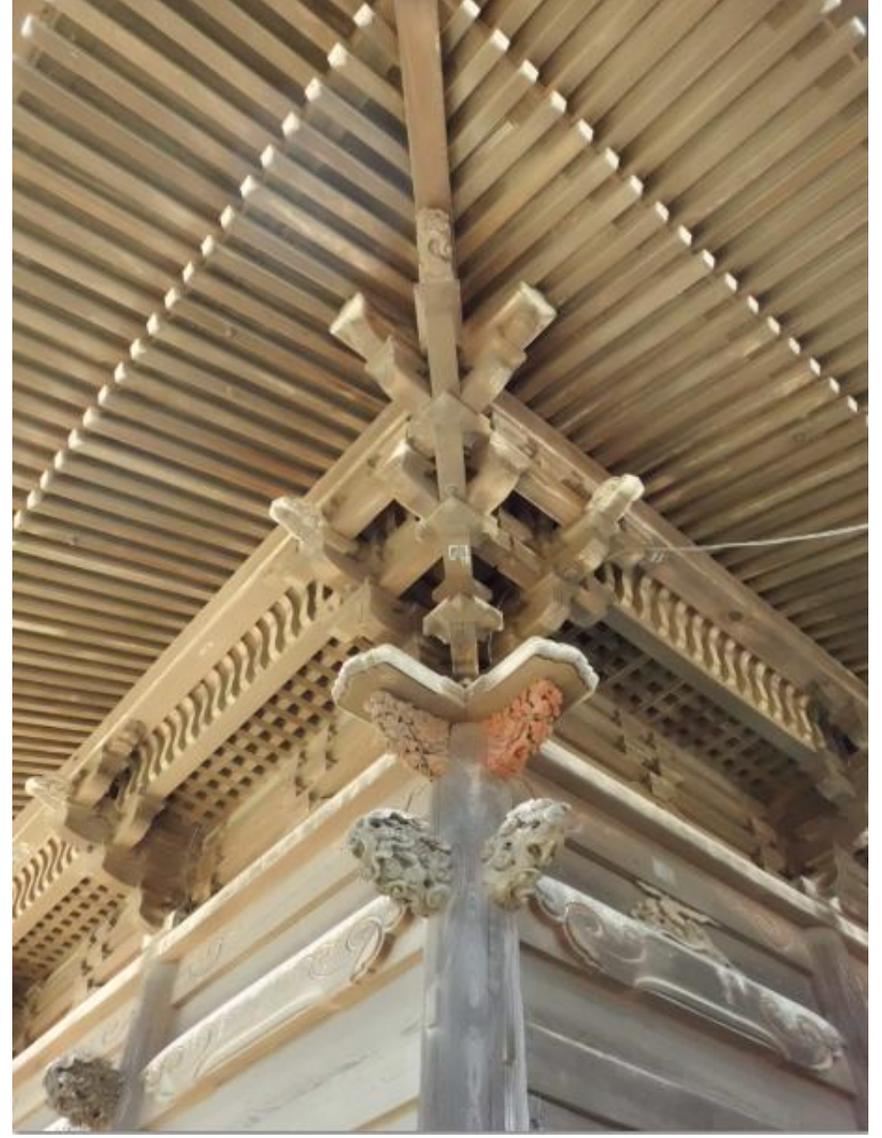
仁王像







彫刻柄持ち送りの付いた大輪





平行垂木であるが、禅宗様のアイテムが詰まっている



境内へ向かう



振り返って仁王門を見る





五重塔が見えてくる



日蓮宗大本山 法華経寺

正中山法華経寺は、祖師日蓮の足跡がみとめられる日蓮宗の霊跡寺院・大本山です。中世、この地は八幡荘谷中郷と呼ばれ、下総国守護千葉氏の被官である富木常忍と太田乗明が館を構えていました。彼らは曾谷郷の曾谷氏とともに、日蓮に帰依してその有力な檀越となりました。時に鎌倉時代中期、建長年間（一二四九―五五）頃のことです。

彼らの館には持仏堂が建立され、のちにそれが寺院となったのが法華経寺の濫觴です。若宮の富木氏の館は法華寺、中山の太田氏の館は本妙寺となり、当初は両寺が並びたつて一寺を構成していました。この両寺が合体して法華経寺を名乗るのは、戦国時代の天文十四年（一五四五）以後のことです。

富木常忍は出家して日常と名乗り、法華経寺の初代貫首となり、二代目は太田乗明の子日高が継ぎました。そして千葉胤貞の猶子である日祐が第三代貫首となった鎌倉末期から南北朝期ごろ、法華経寺は隆盛の時代を迎えます。千葉胤貞は当時、守護ではありませんでしたが、千葉氏の有力な一派として威をばり、下総・肥前などの土地を寄進して、日祐の後押しをしています。日祐は胤貞の亡父宗胤の遺骨を安置し、名実ともに法華経寺を胤貞流千葉氏の氏寺とし、その後の法華経寺の基礎をつくりました。その後、室町時代をへて江戸時代に至ると、ひろく庶民にまで信仰される寺院となります。

法華経寺には、祖師日蓮の書いた「立正安国論」「観心本尊抄」の国宝や重要文化財をはじめとして多数の聖教（仏典）類が保管されています。これは千葉氏のもとで文筆官僚の任にあたっていた日常が熱心に整理保存に意をそそいで以来、寺内の宝蔵や坊で厳重に保管されてきた結果です。現在は境内の奥の堅牢な聖教殿で保管されており、その伝統はいまも確かに受け継がれています。

また、日蓮自筆の聖教の裏からは、鎌倉時代の古文書が発見されました。これを紙背文書と言います。これは富木常忍が提供した千葉氏関係の事務書類を、裏返して著作の料紙として日蓮が使用した結果、偶然のこされたもので、歴史に残りにくい人身売買や借金の実態など、当時の東国社会の生々しい現実を知る貴重な資料となっています。寺内にはその他、重要文化財の法華堂・祖師堂をはじめとする堂舎、絵画や古記録・古文書などの数々の文化財があります。また周辺には日蓮が鎌倉にむけて船出したという二子浦（現船橋市二子周辺）の伝説など、日蓮にまつわる伝説も豊富に残されています。

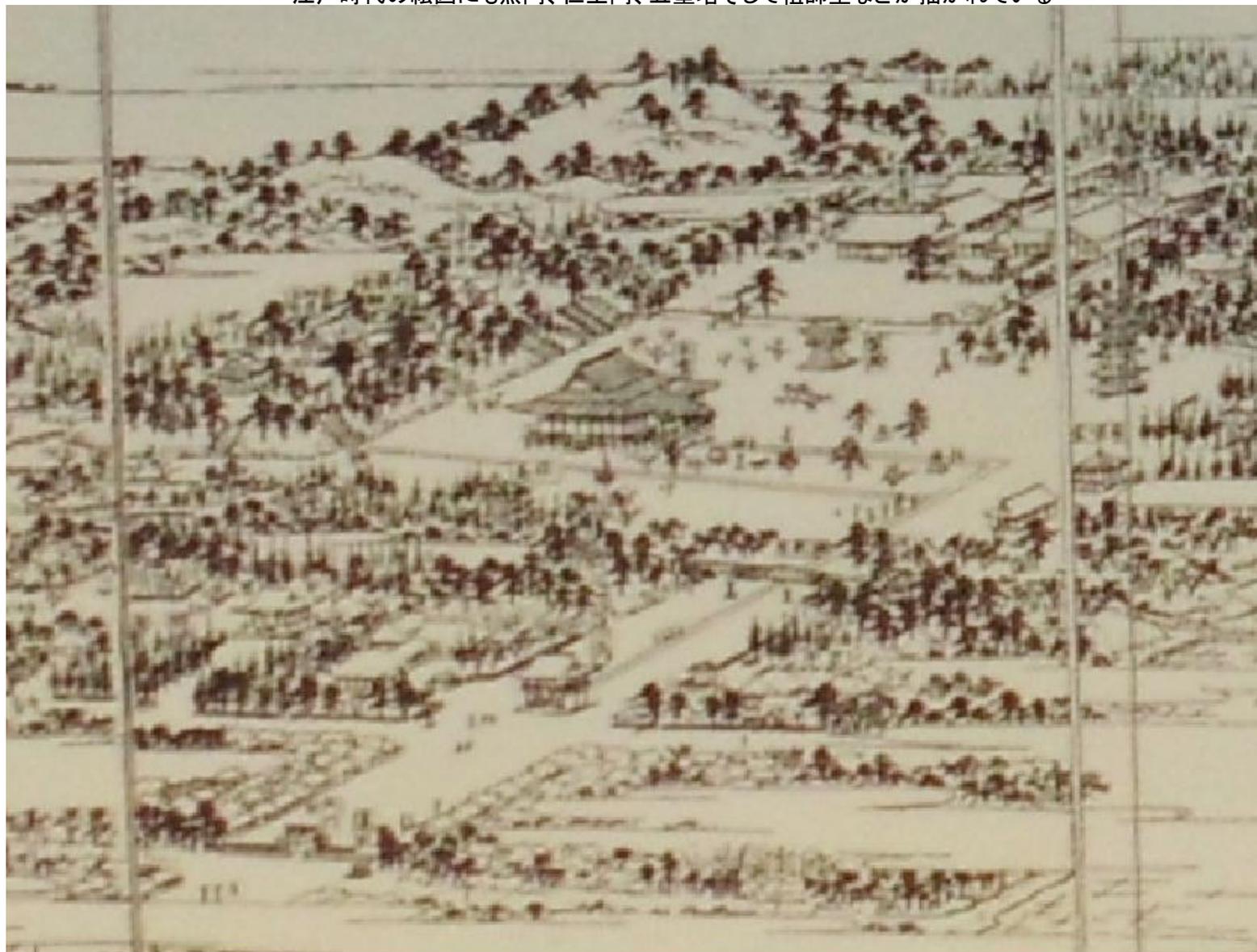
これらにより大本山としてはもちろん、さながら文化財の宝庫として、法華経寺の名は全国に知られています。

平成十年十二月

市川市教育委員会

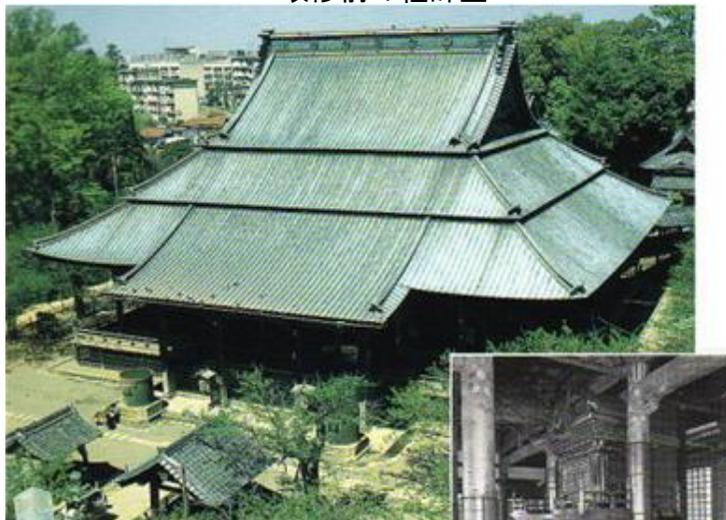


江戸時代の絵図にも黒門、仁王門、五重塔そして祖師堂などが描かれている



この絵では祖師堂(中央)の屋根は「比翼入母屋屋根」ではなく「三層鍔葺き屋根」になっている

改修前の祖師堂



現在の祖師堂



大本山 法華経寺 重要文化財 祖師堂

以前は三層鍔屋根入母屋形式であったが、現在は建造時の形状とされる比翼入母屋造に復元されている（柿葺き）
比翼入母屋造は吉備津神社本殿（国宝）と同じです。

インターネットより



法華經寺案内図



五重塔/江戸時代初期/重要文化財



重要文化財 法華経寺五重塔

大正五年五月二十四日指定

建築年代 江戸時代 元和八年（一六二二）
構造形式 三間五重塔婆 瓦棒銅板葺

この五重塔は本阿弥光室が両親の菩提を弔うために、加賀藩主前田利光公の援助を受けて建立したものです。塔の総高は九八尺（約三十m）で近世の五重塔としては標準的な規模となり、東京都大田区池上にある本門寺の五重塔（重要文化財）や台東区上野の寛永寺五重塔（重要文化財）とほぼ同じですが、他のものと比較すると軒の出が少ないので細長い感じを受けます。

建築様式は和様を主体として造られていますが、最上重のみは禅宗様になっています。これは明治四十五年に半解体修理が施された際に変更されたものとみられます。また、初重の正面は両開きの棧唐戸、両脇には窓枠に等間隔に格子をはめ込んだ連子窓を取り付けた伝統的な形式を守っています。

塔の内部には中心に心柱、その外側には四天柱と呼ばれる四本の柱を立て、さらに禅宗様須弥壇（仏像を安置する壇）を置き、木造釈迦如来・多宝如来坐像（果指定文化財）を祠っています。四天柱をはじめとして内部は極彩色や朱漆で塗られ荘厳にされています。

昭和五十五年に修理が行われて外部に弁柄塗りが施されました。

平成十一年三月

市川市教育委員会





同時代の池上本門寺や上野寛永寺の五重塔と比較すると軒の出が少ないという











最上重のみ扇垂木となっている



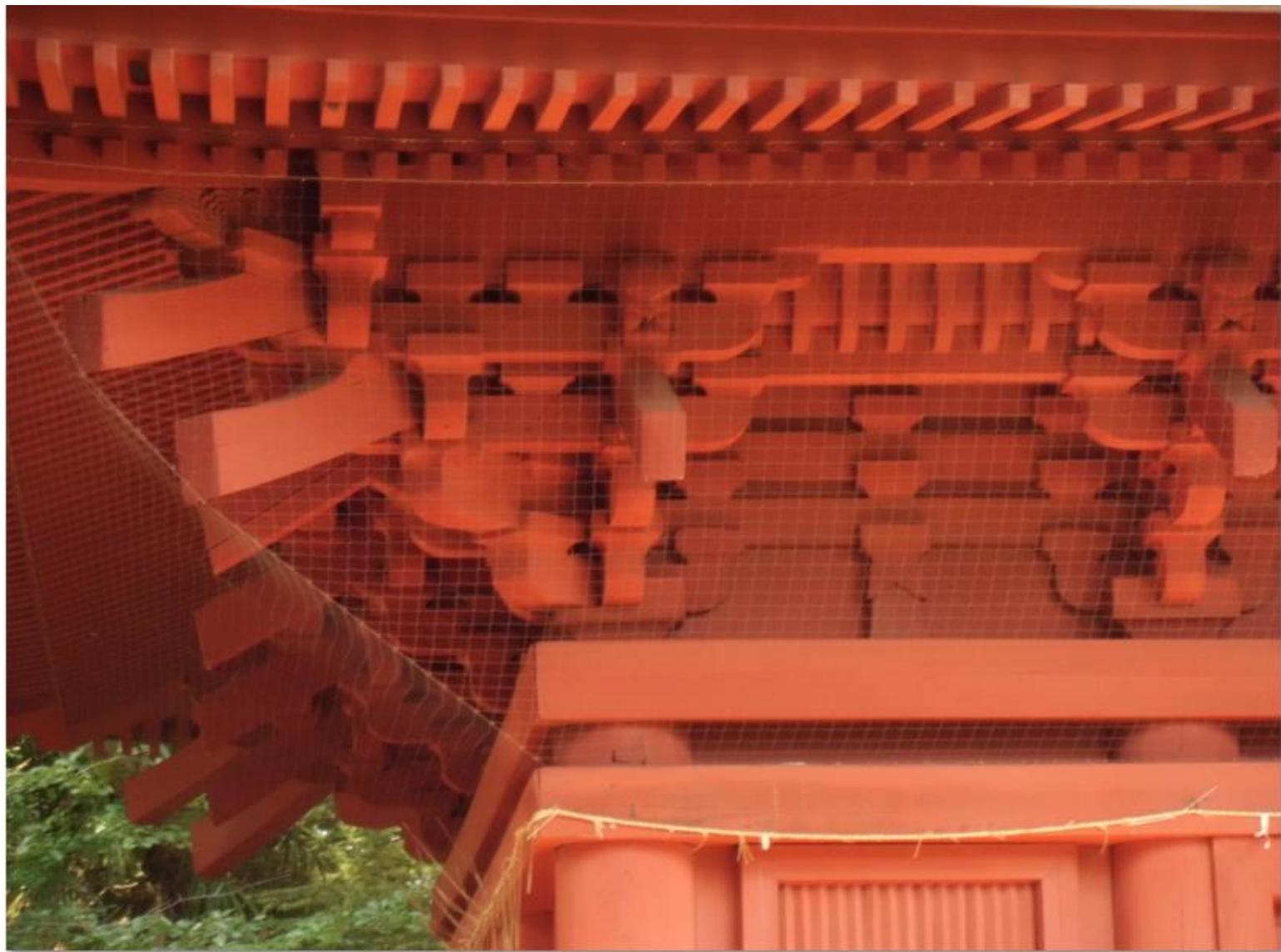
その他は平行垂木



棧唐戸と連子窓/初層のみ高欄が廻っていない







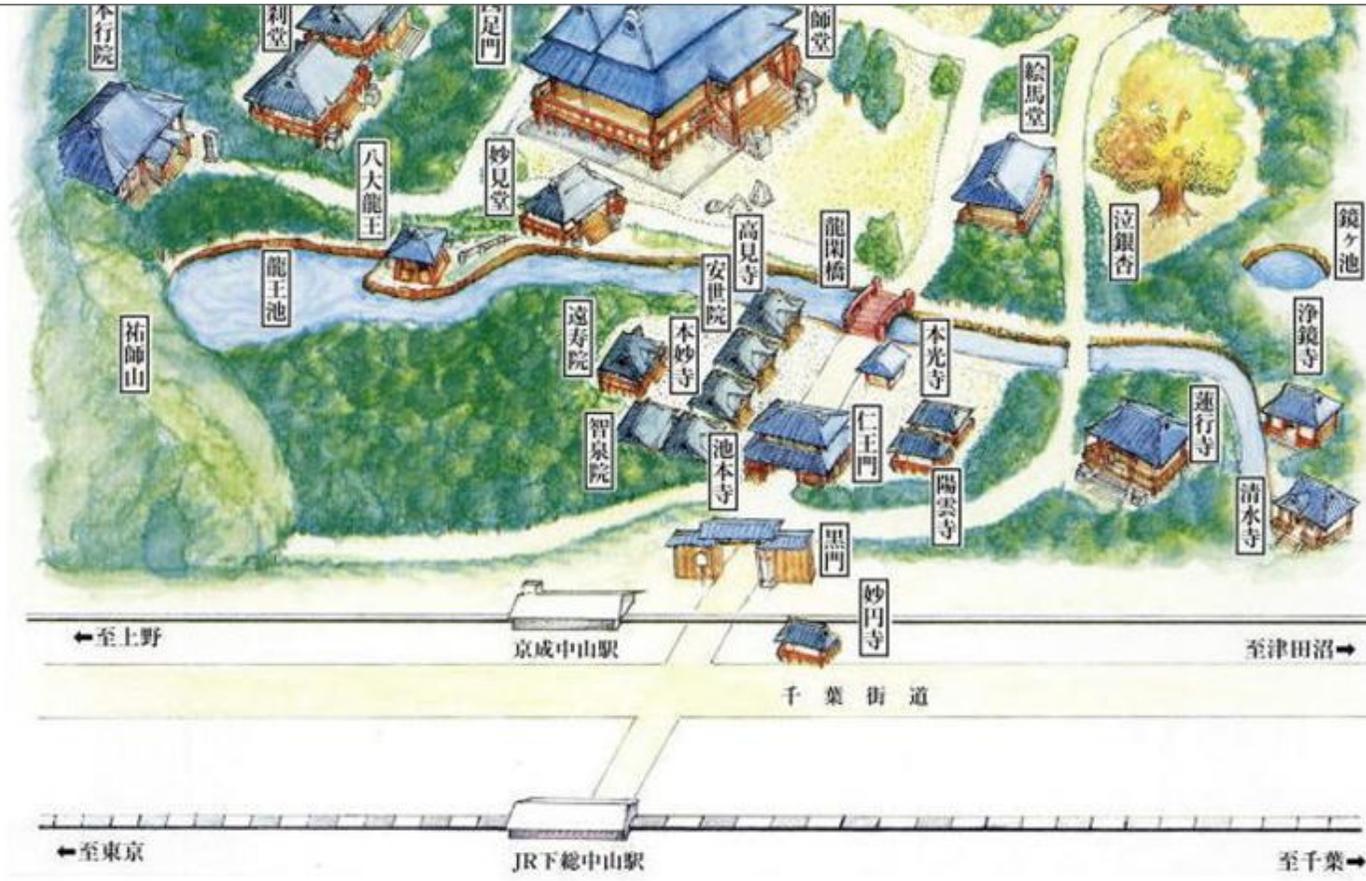




参考ホームページ

<http://www.hokekyoji.com/index-new2.htm>





インターネットより